現職研修委員会　社会科部

羅針盤

２０９号
H29. 12. 18

社会科部　情報活用委員会

単元を創る力

社会科部長　　杉 田 吉 男

教師１年目、私が初めての指導員訪問で見ていただいた授業は、中学１年生の地理的分野「ヨーロッパ州」の単元でした。ヨーロッパの主な国についてグループで調べ、それを順番に発表し、質疑を受けるという授業でした。指導員訪問当日は、フランスについて調べたグループの発表を基にして授業を展開していきました。その授業を参観してくださった当時の指導員の先生からは、「新任にしてはよく頑張った」と言っていただき自信となったことを今でも覚えています。

でも、後から振り返ると、この授業は足らない点がたくさんあった授業でした。当時、私は「研究授業は先生が説明しているだけの授業ではだめ」と言われていたので、調べ学習をして発表するという展開にしました。それが、子どもが主体的に活動する授業だと考えていたからです。でも、実際は、台本のある劇のような発表で、子どもが動いているように見せかけた主体性が全く見られない授業になっていたのです。

その後も、毎年、私なりに考えた実践を積み重ねましたが、子どもが主体的に深く考える授業をすることはなかなかできませんでした。転機となったのは、平成元年から愛教大附属岡崎中学校の研究に共同研究者として参加させてもらったことでした。研究の中心は、「単元を創る」ことで、まずはこのことに衝撃を受けました。それまで、単元全体を構想するとか、単元を貫く課題を設定するということには全く目を向けたことはありませんでしたし、そもそも研究授業１時間をどうするかということしか考えていませんでした。附属中の研究に触れ、子どもたちの姿を見て、やはり単元という長いスパンで追究をしていくことが子どもの主体性を伸ばすには必要だと痛感しました。

今では、単元を通して探究学習を進めていくことは、当たり前のこととされています。それが、今回の学習指導要領改訂で求められている「主体的・対話的で深い学び」につながっていくことは言うまでもありません。社会科においては今回学習指導要領が改訂されても、これまで行ってきた探究を核にした実践を粛々と継続していけば何の問題もないと私は考えています。

ただ、研究授業を参観していると、単元を創っていない、本時だけに焦点をあてた授業に出会うことが多くあります。一見、子どもが活動しているように見えたとしても、最終的には深い学びに至っていない点が気になります。単元を構想するためには、教材研究に多大なる労力が必要となり、確かに大変です。しかし、自分がこれだと思う出来事、人、物に出会えたとき、教師としてこの上ない喜びを感じることができますし、そこからオリジナル単元を創り上げたときには何ともいえない成就感を味わうこともできます。ぜひ、目の前の子どもたちのために、そして社会科教師である自分のために研鑽を深め、単元を創る力を身に付けていきたいものです。

『授業力・教師力アップセミナー―基礎編』報告

８月１日（火）、岡崎城周辺においてセミナーを行いました。大変暑い中での研修会でしたが、多くの先生方に参加していただきました。

午前中に行われたフィールドワークでは、岡崎むかし館の野本欽也先生と二十七曲り（康生町～魚町～材木町）を巡りました。道中、古くから残る建造物や史跡に残された裏話など、興味深いお話をお聞きしました。また、終着点の乙川河川緑地では、近年、発掘された岡崎城の石垣について大変詳しい説明を聞くことができました。午後からは、岡崎市図書館交流プラザ「りぶら」にて、野本先生から、フィールドワークを踏まえた授業の作り方や地域素材の教材開発法など、具体的な手順等を教えていただきました。この会に参加する度に、自分の足で見てまわることの重要性を改めて認識し、子どもたちに学区の歴史や成り立ちを伝えたいと強く思います。大変有意義な研修会になりました。　（基礎研修委員会委員長　男川小　原田　康成）

第６７次　教育研究愛知県集会報告

10 月 21 日（土）、名古屋市のウインクあいちにて、第 67 次教育研究愛知県集会が開かれました。社会科部からは、社会科教育の小学校・中学校の各分科会に、４名の先生が正会員として参加されました。活発な議論がなされる中、「子どもの姿」をとらえ、その変容から成果や課題を分析した岡崎の研究実践が高い評価を受けました。その中から、２名の先生方に、教育研究集会の様子について報告していただきました。

参加された正会員の先生
〇社会科教育　小学校
加藤　周司先生（矢作東小）
吉見　　明先生（羽根小）
〇社会科教育　中学校
平岩　大督先生（北中）
佐々木幸美先生（竜南中）

社会科教育小学校分科会では、地域学習６本、国土･産業学習８本、歴史学習４本、公民学習３本の計 21 本のリポートをもとに、活発な質疑・討論が行われました。主に、確かな根拠をつかませるための「学習活動の工夫」と、獲得させた根拠を基に「社会参画する力」について、話し合いが行われました。

地域学習と国土・産業学習では、社会的事象を切実に捉えさせるための地域素材の開発、地域素材をきっかけに産業構造や環境保全を捉えさせるための手立て、学びをもとに社会へ参画させていくための手立てなどについて、話し合われました。歴史・公民学習では、社会的事象を多面的・多角的に捉えさせるための手立て、歴史学習における社会参画する姿をどのように捉えていくかなどについて話し合われました。

総括討論では、根拠を基にした話し合い活動で育てたい力や社会参画する力とはどのような力か、また、社会参画を目指すために必要な社会認識を育てる手立てには、どのようなものがあるかなどについて話し合いが進みました。

助言者の先生からは、「根拠の質を問うこと」「社会参画する子供の姿とはどのような姿か」などについて、実践例をあげながら具体的にご指導いただきました。今回の経験を今後の実践に生かせるよう、努力していきたいと思います。（矢作東小　加藤　周司）

社会科教育中学校分科会では、地理学習 10 本、歴史学習４本、公民学習４本の計 18 本のリポートが発表され、「中学校段階での主権者としての資質・能力」「社会科の授業における社会参画」「地域素材の見方・考え方」「社会科における言語活動」について、話し合いが行われました。

「主権者意識」を高めることを念頭においた実践が、数多くあったことが印象的でした。また、教師側に明確な学ばせたい内容・目標があり、教材と出会って主体的に問題解決を図ることにより、目標を達成していくという一連のプロセスの大切さも改めて痛感しました。単元を通して学ばせたいことを教師がしっかりもっている実践ほど、そのための手立ても明確になっており、大変勉強になりました。

さらに、総括討論では、昨年に続き「明るい未来を創造するために、社会科教育はどうあるべきか」について活発な意見交換が行われ、子どもたち自身が明るい未来を想像できるような教材の提示や単元の展開が必要だという意見が出されました。

助言者の先生からは、討論した内容をもとにして「地域素材は切実感を高めることができる大変有効な教材であること」「対立軸がある話し合いの合意形成の仕方を教師が示すことの大切さ」など、社会科の基礎となる部分だけでなく、主権者意識と関わらせて今後の授業研究につながるご指導をいただきました。（北中　平岩　大督）

社会科研究作品展＆発表会

今年度も社会科部と岡崎むかし館が協力して、９月 30 日（土）～10 月 10 日（火）に、岡崎市図書館交流プラザ「りぶら」で社会科研究作品展を行いました。市全体で 2947 点の社会科研究作品が制作され、そのうち小中合わせて 142 点の代表作品が作品展に出品されました。足でかせいだ情報や資料を多く集めた作品、身近なことに関心をもって課題を設定し、追究を深めた作品が多く見られました。集まった作品は、研究作品委員会の先生方と「りぶら」の職員の方々によって、２階フロアに展示されました。作品が展示された児童生徒の皆さんには、岡崎市教育委員会より賞状が贈られました。展示期間中は、熱心に作品に見入る大勢の親子連れや市民の皆さんの姿があり、今年も大好評を博しました。

特　別　賞　を　受　賞　し　た　み　な　さ　ん

学年	テーマ	氏名	学校名
小３	身のまわりのぼうさいから学んだこと	宮山　彩葉	大門小
小５	電柱のない街に	大野　楓子	根石小
小５	日名橋がない時代のわたり方	佐野　日鞠	広幡小
小６	ご先祖様達の中島「耕地整理」	横山　和翼	六ツ美南部小
中２	真夏に落ちたパンプキン	杉浦　綾乃	新香山中

また、10 月７日（土）には、「研究作品発表会」を行いました。特別賞に選出された５名が、「りぶら」にて研究の成果を発表しました。研究テーマを決めた理由や現地調査を行ったときの苦労などから、児童生徒が意欲的に社会科の研究に取り組んでいる様子がよく伝わってきました。発表終了後、５名の特別賞受賞者には、岡崎市教育委員会より賞状とトロフィーが贈られました。　（研究作品委員会委員長　大樹寺小　平川　誠）

ちょっと寄り道

「山中八幡宮の鳩ヶ窟(東海中学区)」

舞木町宮下にある山中八幡宮は、699 年(朱鳥 14 年)に、山中光重という人物が、夢で宇佐八幡大神のお告げを受けて社を建てたのが始まりと言われています。

鳥居をくぐり、高い石段を登って左手に行くと、薄暗い木立の中に洞窟があります。この洞窟は、1563 年(永禄６年)に起こった三河一向一揆で、針崎の戦いに敗れた徳川家康が、追手から身を隠したと言われている場所です。追手の兵が怪しく思い、洞窟の穴に槍を二度三度突き刺したところ、中から二羽の白い鳩が飛び立ちました。そのため、追手の兵は「中に人が隠れているはずがない」と思い込み、家康は難を逃れたと伝えられています。

大樹寺や関ケ原での出来事など、家康が九死に一生を得たエピソードは数多く存在します。しかし、この「鳩ヶ窟」での出来事は、一向宗(浄土真宗)という仏教の争いに巻き込まれた家康が、山中八幡宮の神に救われたかたちになっており、歴史的事象でありながら物語のような面白さを感じます。山中八幡宮は、学区でも特に歴史的ロマンを感じられる場所の一つです。

(東海中　伊達　恭子)

平成 29 年度　愛社研報告

10 月 24 日（火)、田原市立東部中学校において、愛知県社会科研究大会が開催されました。岡崎から２名の先生が実践報告をされました。その様子を報告していただきました。

～小学校６年生分科会～

小学校６年生の公民単元「安心安全な街を目指す羽根学区とそれを支える岡崎市」の実践について、報告しました。社会に参画しようとする子どもの育成を目指して、地震災害を教材化し、市の災害対策や地域の防災活動について追究しました。

市議会議員をゲストティーチャーとしてお招きし、市議会や予算の役割を理解するとともに、限られた財源で市全体の災害に備えることは困難であること（公助の限界）に気づいた子どもたちは、「このままで市の災害対策は大丈夫なのか」という問題意識を強くもちました。この問題を解決するために、地域の方から防災について話を聞くと、地域の方は公助の限界を理解しつつ、自分たちにできることは自分たちで取り組み、本当に必要な物資や情報を市に要望していることが分かりました。また、この地域の方の取り組みに対し、市も支援を行っていることを理解しました。地域の方の街を守るための取り組みや思いを知った子どもたちは、地域の一員として自分たちにできることを模索し始めました。そこで、単元のまとめとして「災害から命や生活を守るために必要なことを市に提案しよう」というテーマで話し合い、行政側や高齢者、市民全体の意見など、さまざまな立場から意見を交わしました。学習を通して、多面的に問題を捉えながら解決を目指し、社会に参画していこうとする姿が見られました。

協議会では、社会科として学ぶべき内容を押さえつつ、単元を通して子どもの思考を丁寧につなげることができた点を評価していただきました。また、地域に提案することが社会参画することではなく、自分と社会がどう結びついているのかを追究することが社会参画につながるということや、小学校での学びを中学での学びにどのように結びつけていくべきかを考える必要があることなど、ご助言をいただきました。今回の学びを、次の実践に生かしていきます。

（羽根小　吉見　明）

～中学校地理分科会～

中学校２年生の地理単元「中部地方～伝統産業は存続していくことができるのか～」の実践について、報告しました。本単元では、学区に住む花火職人が作る純国産花火を教材化しました。「古い」、「衰退していく」といった伝統産業に対する子どもたちのイメージが、存続に向けた生産者の工夫や技術の高さに気づくことで変化し、「存続させていきたい」、「大切にしていきたい」と考える姿を目指して実践を行いました。

学習を通して、子どもたちは消費者という視点からだけでなく、生産者や花火の関連企業からの視点でも純国産花火を捉えることができ、存続に向けたさまざまな取り組みが行われていることを学びました。また、外国産にはない質の高い技術を取り入れた花火を実際に見たことで、子どもたちは純国産花火への思いを高めていきました。存続していくことが、難しい状況であることには変わりありませんが、それでも純国産花火を「存続させたい」と考え、伝統産業の存続に向けたアイデアを出し合いました。

協議会では、助言者の先生から社会参画の在り方として「中学生なりに社会とどのように関わっていくのかを考える必要がある。その姿を具体的にイメージしながら単元を構成していくとよい」とご助言をいただきました。子どもたちの切実感を高めながら、社会に参画していこうとする思いを高められるよう、今後も研究を続けていきたいと思います。

（翔南中　中根　良輔）

研究発表会報告

竜海中学校（10月25日（水））

本校では、「チャレンジ　竜海式 Active Learning ～コミュニケーションを取り入れた教科学習を中心に～」をテーマに、第 11 次研究３年次の授業研究協議会を行いました。昨年度の課題である「教師誘導型授業からの脱却」、「コミュニケーションの質的な深まり」を意識した授業づくりに取り組んできました。

３年生公民「長時間労働はブラックなのだろうか」の授業では、長時間労働について追究活動を行い、長時間労働の利点や問題点を話し合いました。追究活動では、新聞などの資料を集めて読み取ったり、労働基準監督署や会社の経営者、営業などを担当する会社員の方へのインタビューをしたりして、長時間労働の実態に迫りました。本時の話し合いでは、「過労死が起こっているという事実から、長時間労働はブラックだ」「会社員の方の話から、やりがいをもって仕事をしていれば、長時間でもブラックではないと思う」など、追究したことを生かした発言が多くみられました。また、話し合いが進む中で「自己管理であれば長時間労働をしてもよいか」という視点で学びを深めることができました。その後、よりよい働き方について、働き方の改善点を出し合ったり、自分の家族の働き方や健康を気遣ったりするなど、ワーク・ライフ・バランスについて考える姿が見られました。　（竜海中　諏佐　駿介）

福岡中学校（11月15日（水））

本校では、「能動的に学ぶ生徒の育成～『見通す　かかわる　振り返る』授業づくり～」を研究主題として、研究発表を行いました。１年生の地理的分野「世界の主な地域～アフリカ州～」の単元では、「アフリカの発展には何が必要か」を学習課題に、話し合い活動を行いました。インターネットや書籍を使った調べ学習や、青年海外協力隊としてアフリカの支援活動に携わっていたゲストティーチャーの話をもとに、意欲的に発言する生徒の姿が見られました。この話し合い活動で、食料問題や教育問題などアフリカが抱えるさまざまな課題と、それを解決していく方法を考えることができました。「どの課題もつながっている」と考える生徒もおり、話し合い活動を通じて、アフリカが抱える課題が関わり合っていることを捉えることができました。後半には、アフリカへの食料支援量と日本の食料廃棄量に関する資料を提示し、「日本人として何ができるか」という視点で話し合い活動を行いました。授業の振り返りでは、「募金するだけでなく、実際に現地へ行くことが大切」「アフリカのためにできることを考えて実行していきたい」という発言もあり、社会参画への意識を高めることができました。　（福岡中　権田　康成）

平成 29 年度　全小社報告

10 月 27 日（金）、奈良県において全国小学校社会科研究協議会研究大会が開催されました。岡崎を代表して、城北中の丸尾健太先生が実践報告をされました。その様子を報告していただきました。

～小学校６年生課題別研究会～

奈良県で行われた「全国小学校社会科研究協議会研究大会」に参加しました。本研究大会で参観した授業では、子どもたちに獲得させたい知識を整理し単元を構成する上で、「知識の構造図」が重要な役割を果たすという発表がありました。そのメリットとして、説明的知識の獲得から概念的知識の形成を意図的に計画できるという点が挙げられていました。そして、その「知識の構造図」を基に設定した毎時間の「めあて」に対して、それに関わる資料の読み取りやグループでの話し合いをする中で、子どもたちは新たな知識を獲得していきます。また、振り返りの時間に「めあて」に対する自分なりの答えを説明するというスタイルで授業を進め、単元を貫く学習課題に迫っていくという実践報告がありました。課題別研究会では、小学校６年生の歴史単元「15年戦争と岡崎市民の思い」の実践について報告しました。協議会の中で、地域教材の扱い方や単元を貫く学習課題の設定方法、「道徳の時間」で扱われる平和教育との違いなどについて意見交換をしました。子どもたちに獲得させたい概念的知識を明確化した上で、興味・関心を高めるため教材の工夫や単元構想など、全国の動向に今後も注目しながら授業実践に取り組んでいきたいと思います。　（城北中　丸尾　健太）